

令和3年度事業報告

I. 総括

会員の皆様方におかれましては、平素より本会の事業にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた事業が予定通りに実施できない事もありました。

本年度の事業報告として具体的には後述致しますが、まず公益事業1の「医用放射線の安全利用に関する知識の普及啓発を図り、保健の向上に寄与する事業」に関しましては、令和3年12月に開催を計画しておりました第15回愛媛県診療放射線技師学会の対面開催を断念し、令和4年1月23日にWebによる開催と致しました。Web開催ではありましたが、学術委員をはじめ関係各位のご尽力と発表者、座長の皆様方のご協力により充実した学術大会を開催することができました。また、昨年度は中止となりましたレントゲン週間イベントは、令和3年11月28日にフジグラン松山にて開催致しました。そして、教育の場での活動に関しては、感染対策に気を配りながら愛媛県教育委員会や松山市小中学校PTA連合会と連携し有意義な活動を行うことができました。

次に、公益事業2の「放射線技術学の調査研究を図り、健康管理支援及び医療・保健の向上に寄与する事業」に関しても、計画しておりました多くの研修会を開催することができませんでした。そのうち、各支部で開催しております研修会については南予部会での開催は叶いませんでしたが、東予部会研修会はWeb開催で実施することができました。

また、日本診療放射線技師会主催ではありますが、基礎技術講習会（心血管撮影・IVR）を愛媛大学医学部にて通常開催いたしました。フレッシュャーズセミナーはWeb開催とし、多くの皆様方にご参加いただきました。

更に、令和3年度後半からの非常に大きな事業である『告示研修』（実技研修）を令和4年2月5日と2月27日の2日間を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、止む無く中止といたしました。この研修は“新しい業務拡大に伴う免許制度の変更”に対応するための義務研修であり、本会会員にとどまらず免許を有するすべての診療放射線技師に求められるため、次年度には何とか開催しなければならないと考えております。

令和3年度も、医療・保健に関わる職能団体として感染拡大防止には十分に配慮しながら事業を推進してまいりました。そのため、イベントの中止や開催形式の変更などにより、多くの皆様方にご迷惑やご負担をお掛けすることもありましたが、研修会、学術大会のWeb開催・ハイブリッド開催などコロナ禍での新たな運営形態の構築も徐々に進んでおります。昨年度に引き続き、我々医療者として、日々の業務においても、ストレスがかかることの多い1年でありましたが、コロナ禍の中で、今、考えられる最善を模索し続けた1年となりました。

今後も、より良い事業運営を目指してまいりますので、引き続き皆様方のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

Ⅱ. 庶務報告

1. 本会役員

会 長	水口 司
副 会 長	大元 謙二 渡辺 真由美

○地区理事

東 予 地 区	谷川 達也 源 秀一
南 予 地 区	三好 史彦 水田 智

○常務理事

事 業 推 進	岡本 隆
総 務	茂木 大志
財 務	大西 恭平
学術・教育	小池 大作 高本 研二 羽藤 寛文 和田 彬
渉外・情宣	茂木 大志（兼任） 木村 浩之
庶 務	小島 明彦

監 事	富永 亨 高橋 渉 平野 尚
顧 問	西田 史生 塩崎 恭久（衆議院議員）

2. 会議開催状況

（1）定期総会

第 67 定期総会を令和 3 年 6 月 13 日（日）、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライン会議システム（webex）を通じて役員が参加。出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意思疎通ができる状態となっている事を確認した上で実施した。決議は全会員対象に委任状か書面評決を提出してもらい、その結果各議案は全て承認された。（委任状 93 名 書面表決 139 名）

（2）理事会

令和 3 年度は 4 回（令和 3 年 4 月 10 日（土）、令和 3 年 6 月 13 日（土）、令和 3 年 10 月 16 日（土）、令和 4 年 3 月 5 日（土））に開催し、重要案件について審議処理した。

（3）常務理事会

令和 3 年度は 12 回開催し、すべての案件について審議処理した。

(4) 各種委員会

○ 表彰委員会

- ・ 愛媛県診療放射線技師会会長表彰を4名選出した。
- ・ 日本診療放射線技師会主催表彰である「勤続30年表彰」対象者を5名推薦した。
- ・ 厚生労働大臣表彰に1名推薦した。

○ 愛媛県診療放射線技師学会大会実行委員会

第15回愛媛県診療放射線技師学会大会開催に向け実行委員会を設置し、企画・運営した。

3. 会員動向状況

令和4年3月末現在の会員数は、425名。新入会員18名、転入者3名、転出者2名、退会者15名（うち会員資格喪失1名）であった。

Ⅲ. 事業報告

1. 医用放射線の安全利用に関する知識の普及啓発を図り、保健の向上に寄与する事業

概要の説明 医用放射線の安全利用に関する知識の普及啓発の手段としての学術講演会・機関誌の発行・イベントの開催及びホームページを通してその情報の提供・開示を行い、広く県民へ医療における放射線利用の有用性の周知を図り健康支援に寄与する事業。

(1) 第15回愛媛県診療放射線技師学会大会

令和4年1月23日（土）web方式にて開催した。内容については、一般演題4題、フレッシュセッション4題。教育講演『診療放射線技師によるCT読影補助について』（大垣市民病院 高田 賢）、特別講演『新型コロナウイルス感染症 愛媛県のこれまでとこれから』（愛媛大学医学部附属病院 感染制御部 部長 田内 久道）。フレッシュセッション優秀演題は、『胸部レントゲン撮影における左右反転防止策の検討』（愛媛大学医学部附属病院 船田里奈）。参加者は79名。

(2) レントゲン週間

令和3年11月28日（日）、フジグラン松山にて開催。骨密度測定者は40名、乳腺触診体験者は20名。

(3) 調査研究に対する表彰

『脳血栓回収療法におけるMRI画像を用いた術中支援』

(HITO病院 井川 裕史)

- (4) 機関誌の発行、ホームページの作成・公開
機関誌「愛媛放射線」 No. 91 を令和3年5月に発刊。
- (5) 教育の場での活動（出前授業）
 - ① ジョブチャレンジU-15（愛媛県モデル事業）
県立中等教育学校3校（松山西中、今治東中、宇和島南中）を対象に各校10名程度を病院に受け入れ、2～5日間の体験学習を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止。
 - ② キッズジョブまつやま2021（松山市PTA連合会主催）
令和3年11月28日（日）、松山市総合コミュニティセンターにて開催。参加者は、小学生から中学生で65名。
 - ③ お仕事フェスタ（河原学園主催）
令和4年3月19日（土）・20日（日）、新型コロナウイルス感染拡大の伴い中止。

2. 放射線技術学の調査研究を図り、健康管理支援及び医療・保健の向上に寄与する事業

概要の説明 放射線の管理及び障害防止に関する調査研究及び診療放射線技術学の向上を図り、放射線の安全利用と放射線治療の有用性の向上を図り、もって県民の保健の向上に寄与することを目的とする事業。

- (1) 愛媛県診療放射線技師会研修会・愛媛県学術研修会
新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止。
- (2) 管理士部会研修会
新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止。
- (3) マドンナ部会研修会
新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止。
- (4) 東・南予の各支部研修会
 - ① 東予部会研修会は令和3年11月25日（木）にweb方式で開催。情報提供1題、一般演題9題。参加者は60名
 - ② 南予部会研修会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止。
- (5) フレッシュアップセミナー
令和3年9月4日（日）、web方式にて開催。参加者は14名。
- (6) ファシリテーター養成講習会
令和3年12月25日（土）・26日（日）、広島大学病院にて開催。本県から5名が参加。
- (7) 基礎技術講習『血管造影（IVR）』
令和3年7月11日（日）、愛媛大学医学部附属病院 多目的棟1階会議室1にて開催。参加者は18名。

IV. 法人の運営に関する事業

1. 会費早期納入の促進

日本診療放射線技師会と合算請求を行う。

2. 財政の充実

放射線関連企業に「愛媛放射線」の広告を依頼し、財政の充実を図った。

3. 県技役員歴のシステム化

役員歴を整理し、潜在表彰者をシステム管理化し更新。

4. 学術文化活動の推進

○ 令和3年度日本診療放射線技師学術大会

令和3年11月12日(土)～14日(月)、web方式で開催された第37回日本診療放射線技師学術大会に、本県より7名が参加。

○ 中四国放射線医療技術フォーラム2021

令和3年12月18日(土)～19日(日)、第17回中四国放射線医療技術フォーラムは新型コロナウイルス感染拡大に伴いweb方式(ライブ配信とオンデマンド)で開催し、本県より37名が参加。